

ふくしまの森林文化調査カード

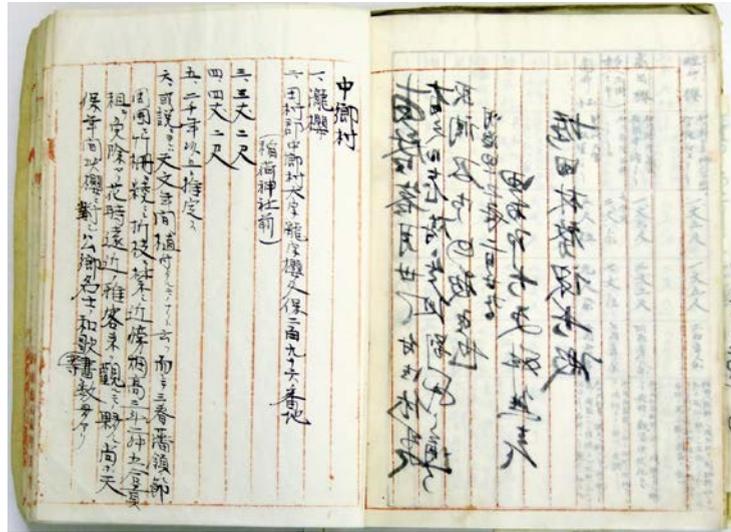
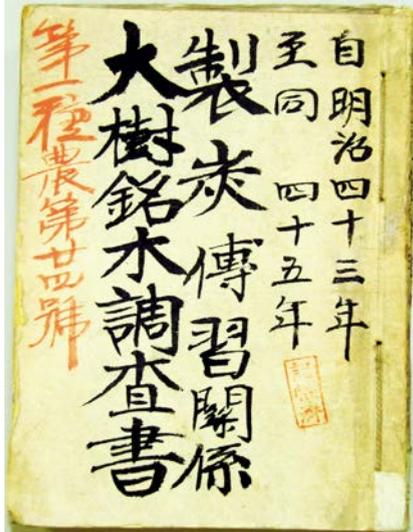
No.36

県 HP公開の可否 (  可 ・ 否 )

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野(ふりがな)	(分野) 調査書	(ふりがな) ちょうさしよ	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	大樹銘木調査書 福島県庁文書3233号		
伝承地域	—		
由来(年代)	1912(明治45)年1月27日、東京帝国大学農科大学教授本田静六から福島県技師堀田英治は老樹・大木・銘木の調査について依頼された。これに対して福島県は県内各郡に対して調査報告を求め、その回答を林務課でまとめたのがこの公文書で、田村郡の部分は1912(明治45)年2月29日、田村郡長更科熊彦から堀田林務課長へ回答されたものである。		
内容	<p>調査項目は、県内の老樹・大木・銘木の地元での呼称、詳細な所在地、地上5尺での周囲、おおよその樹高、おおよその樹齡、古老木に関する伝説・記録の概要などである。</p> <p>福島県を代表する銘木として知られている滝桜(田村郡三春町大字滝字桜久保296番地)は、1922(大正11)年10月12日、「史蹟名勝天然紀念物保存法」により国指定天然記念物となった。当時から「滝桜」と呼ばれており、所在地は田村郡中郷村大字滝字桜久保296番地(稲荷神社前)、幹廻り3丈2尺、樹高4丈2尺、樹齡は推定2,000年以上、一説には天文年間(1532-1555)には植え付けたものともいう。三春藩領時代には周囲に竹柵を廻らして折枝を禁じ、近傍の畑の年貢を免除して保護した。江戸時代から滝桜は有名で、遠近を問わず多くの者が見に訪れ、天保年間(1830-1844)頃には滝桜を詠んだ京都の公卿・著名な人物の和歌懐紙や短冊が沢山残されているという。</p>		
大きさ・材質	(大きさ) —	(材質) —	
見頃	—		
交通アクセス	市内バス:福島駅東口~市内循環バス~「文化センター入口」下車 徒歩5分		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	福島県歴史資料館(Tel:024-534-9193)		

【フリーフォーマット】

キーワード



大樹銘木調査書 福島県庁文書3233号